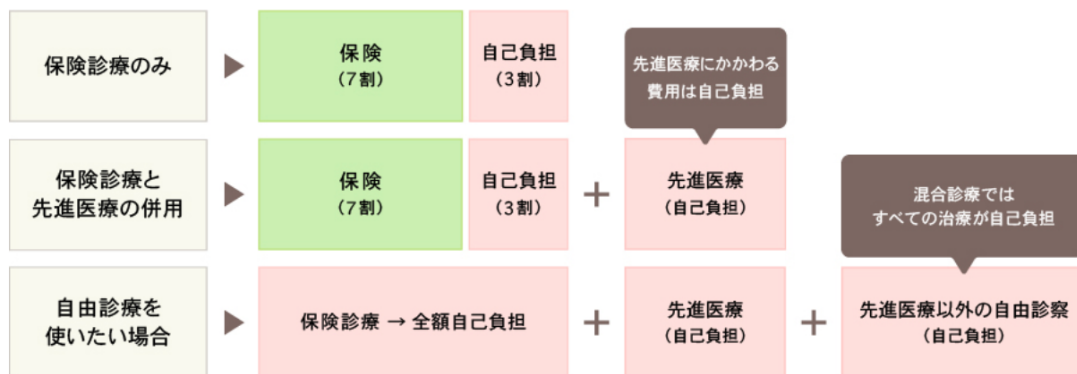


不妊治療における先進医療

- 先進医療とは公的医療保険の対象となるかどうかを評価している最中の医療技術です。2022年4月から不妊治療の保険適用範囲が拡大され、人工授精や体外受精・顕微授精などの「一般不妊治療」や「生殖補助医療」が保険適用となりました。しかし、すべての治療が保険適用されるわけではなく、一部の治療は引き続き自由診療となります。日本では保険診療と自由診療を同時に行う「混合診療」は原則禁止されていますが、先進医療に限っては保険診療との併用が認められています。これにより、基本的な治療は保険適用（3割負担）で受けられる一方で、先進医療部分は自己負担となります。

先進医療をお受けになるメリット

- 治療費の負担軽減・・・先進医療以外の一般的な治療（診察・検査・投薬）は保険が適用され、負担が軽減します。
- 医療保険の給付・・・医療保険の先進医療特約などに加入されている場合には、後日給付金を申請できます。
- 助成金制度の対象・・・地方自治体の助成金制度の対象となります。



当院で実施可能な先進医療

- タイムラプス撮像法による受精卵・胚培養
- 二段階移植法
- SEET法（子宮内膜刺激法）
- 子宮内フローラ検査（子宮内細菌叢検査）
- ERA（子宮内膜着床能検査）
- PICSI（ヒアルロン酸を用いた生理学的精子選択術）
- β 2GPIネオセルフ抗体検査（不育症検査）